

なきごえ

“キーウィ特集号(3)”



1972

9

大阪市
天王寺動物園協会

ニュージーランドからの便り

“オークランド動物園における キーウィの飼育”

飛べない夜行性の鳥 キーウィ (Apertex Mantelli) はニュージーランドでも、かん木や雑木の繁った昼でも暗いような場所に於ての発見される非常に珍しい鳥である。キーウィの羽は未発達で、尾は無い。長くちばしの先端には鼻孔があって、これを使って餌を嗅ぎ探すことができる。卵はほかの鳥に比較して、身体の割りに大きい。

キーウィは、ニュージーランドでは嚴重に保護されている。かん木や雑木の茂っている地域が年々減少してきてはいるが、今のところキーウィが絶滅する心配はない。多くのキーウィが毎年殺されたり、傷つけられたりしている。あるものは猟犬にやられたり、ワナにかかったりまたは夜間に道路上で車にひかれたりする。またあるものは、かん木や雑木を農作準備のために焼き払う際に、その犠牲となる。

傷を負ったり、病気にかかったり、あるいは場所を追われたキーウィが、ニュージーランド北島のかん木や雑木の林で発見されたときには、政府の野生動物局 (The Government Wildlife Service) の職員が治療と安全保護のために動物園へ持っていき、多くはひどく重態で快復しないのであるが、その外のは良くなり、完全な健康体にもどる。

これらの快復したキーウィは、動物園内の一般観客が近づけない場所につくられた、戸外の囲いに入れられ、1年間を戸外ですごす。(オークランドの気温は、冬でも1℃以下になったり、夏でも28℃以上になることはめった



ない) 囲い内には睡眠のための暗くしたおりと、穴があり、草木やしだ類やかん木が深く茂っていて、外部からは見えなくなっている。また、地面は、キーウィが夜にくちばしでつついて餌をあされるようにやわらかい土がある。

自然の習性としては、キーウィは森の中で地面や、くさった丸太、植物などをつついてミミズや、昆虫の幼虫、昆虫、しょう果、果物を探し出してそれらを食べる。当動物園では、それと同じようなものを与えているが、もしも十分なミミズや昆虫が得られないときには、代用品として、さくらんぼの一種 (ox・heart) に生玉子をまぶしたものを細長く切ってミミズに似せて与える。この

表紙の写真説明

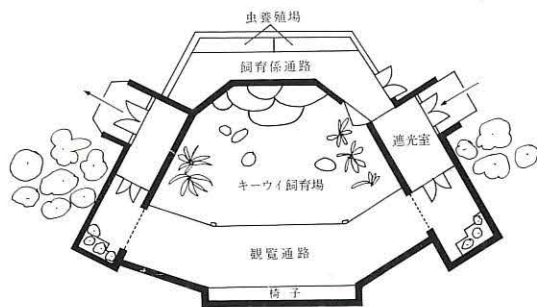
“キーウィ”

最近の元気なキーウィの姿です。

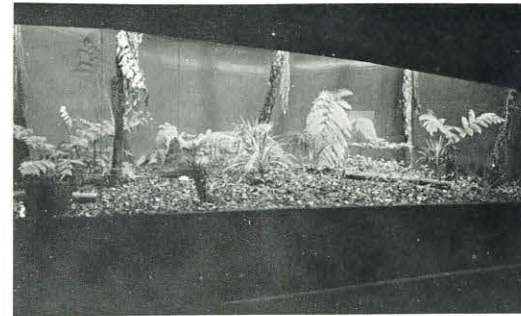
もう、入園以来2年以上すぎましたが、ますます元気です。この個体は、左脚の指が入園したときから、欠けていました。

なぎごえ9月号もくじ

| | |
|------------------------|-----|
| ニュージーランドからの便り | 2・3 |
| “オークランド動物園におけるキーウィの飼育” | |
| S・O・S キーウィ | 4・5 |
| ミミズの養殖苦労物語 | 6 |
| 動物園ニュース | 7 |



オークランド動物園のキーウィ舎平面図



外は、パン切れや、小さく切ったリンゴやニンジン、水に浸した干ぶどう、押しつぶした家きん用飼料 (Poultry Pellets) も与える。餌はビタミンやミネラルを補強してこれらの必要物質を適当に摂取するよう工夫している。“夜鳥”であるということから、キーウィについては、これを動物園で積極的に観客に見せるためには、特別の配慮を要する。

幸い、オークランド動物園にはキーウィのための夜間用小屋 (ノクターナル・ハウス) があり、これを利用すれば、日中にも夜間の状態を作り出すことができる。(夜間に昼の状態にできる)。このノクターナル・ハウスは、昨年5月にニュージーランド保険会社から当園に寄贈されたのであるが、これを使えば、日中にキーウィの夜間の生態を観察するのが可能になる。この建物は、600平方フィートのキーウィ展示用フロアがあって、この土地の木やしだ類が、外の植物といっしょに植えられ、地中には食物源であるミミズや昆虫が入れている。展示物は完全に囲いをされ、暗くされていて、日中は弱い照明が1ヶ所だけあって、その弱い光によってキーウィの部



分に月光の効果を与えている。キーウィは、これを夜だと思って、夜間の行動であるミミズや昆虫をあさりに、建物内を歩きまわる。

夕方5時になると、月光が次第に明るくなって、1時間後には真昼のように明るくなる。キーウィはこれを夜明けだと思い、自分の寝場所に引っ込んでしまう。そして、翌朝の7時には、昼間、の照明がだんだん暗くなり再び月光が再現する。

キーウィをこのようにして展示すると、この鳥のじまをしたり、手で触れたりすることなしに観察することができるし、また、キーウィがこの新しい環境の中で立派に生育することが分ったのはうれしいことである。

これまでのところ、キーウィはオークランド動物園内ではヒナをかえしたことがない。これは、多分に観賞にきするための騒々しさが原因であろうと考えられる。しかし、現在われわれは何羽かのキーウィをノクターナル・ハウスで展示するようになり、そのおかげでこの鳥を妨げのない囲いの中におくことができるので、繁殖の可能性も生じてきた。現につがいのキーウィが屋外の囲いの中で卵をひとつ生み、オスがときどきメスと交代でその上に35日間も神妙に坐っているのが観察された。(完全な抱卵期間は78日間である)

ところが、その卵はとつぜん、はっきりした理由もなく見捨てられてしまった。ふ化器に入れてみたが、無精卵であることが分った。しかし、将来はもっと良い結果が出るものと期待している。

S.O.S. キーウィ

(ウエリントン野生保護局)

★キーウィの実態

何百万年も昔、科学者が走禽類(Ratite)なる語は、ラテン語のいかだを意味するratisから出ている語と呼んでいる一群の鳥類が発生した。この名称は、この鳥類の胸骨には竜骨がなく、ちょうどいかにの様に平らになっているところに由来する。他の鳥の場合、羽の筋肉がこの竜骨に付いているのであるが、この竜骨がないために、彼らは飛ぶことが出来ない。この部類にはエミュー、ダチョウ、ヒクイドリ、現在絶滅しているモアなどの鳥がある。

キーウィは、初期にこの種類から分派したものと考えられている。キーウィの祖先は、少なくとも7000万年前、この国と北部の陸塊部とを接いでいた接続部分が存在していた頃に、モアなどと同時にニュージーランドに渡来したと考えられる。

キーウィについて、最初紹介された頃は非常に物珍しかったので、1813年に初めてヨーロッパに持帰られた時、ようやくこの鳥の存在に疑いをかける人がなくなった。キーウィには、異様な面が多くあるのを、キーウィの存在を疑う理由はいくつかある。キーウィの鼻孔は、他の鳥と違って口ばしの先端についているため、一般の鳥より嗅覚が発達している。

尚、尾がなく、翼も未発達で、目も非常に小さい。羽毛は、毛のようで、長い剛毛が口ばしのつけ根をとり巻いている。またキーウィの卵は他の鳥類に比し、また体の大ききの割に大きい。

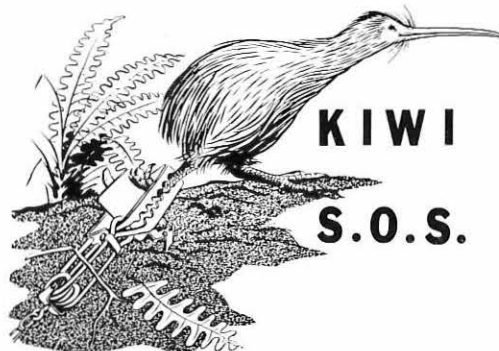
キーウィは夜行性である。夕方になると食物を求めて、非常に目に付きにくい隠れ家を出てゆく。大きな吸気音をさせながら、軟い地面や朽木などにいる虫、昆虫、幼虫などを捜し求める。長い口ばしが、特徴のある孔をあけて行く。これは、キーウィの存在を、はっきりと教えてくれる印となる。

食物の中には、森林の地面に落ちていた、ごみくずの中の木の葉や木の実も混入する。キーウィは、昆虫の幼虫やイモムシ(甲虫の幼虫)を食べたり、果実の種子をあちこちに播いて歩くので、森林の生育に役立っている。

キーウィの巣は、ほら穴、中空の丸太、あるいは木の根の間などに作られる。通常、営巣は春行われるが、冬や夏にも見られた例がある。

1度に1〜2コ、稀に3コの卵が数日の間隔を置いて産まれる。雄だけが卵を抱く。孵化に要する期間は10週間である。孵ったヒナは完全に羽が生えているが、数日巣から離れない。これは、雄がくずで入口をふさぐからである。一度外へ出ると、ヒナも口ばしを使って成鳥のように、地面の餌を捜し歩く。

飛べないので、危険から身を守る時は、強力な足に依るか、或いは口ばしを前へ突出して、ころげ回るように走る。戸外でびっくりさせると、急に近くの物陰にかくれようとして、頭を突込む。走っていて逃げ場を見つけたとしても、強力な爪の



ついている足で、突き返すようにして身を守る。

キーウィの啼声の特徴が、その名前になっているが、性と種類によって異なる。キーウィは大きく二種類に別れ、さらに5種類に細分される。

第1のグループは北島キーウィ、南島キーウィ、及びスチュアート島キーウィに分けられ、いずれも黒い縞のある茶色の羽毛をしている。

他のグループは、灰色の羽毛に、焦茶の棒状斑、又は大小の斑点入り、或いは灰色キーウィである。

★キーウィの里

ニュージーランド全土に分布する茂みや灌木地帯は、色々の種類のキーウィを、色々の地域に亘って住ませるのに好適である。北島に住むキーウィは、マナワツ川以北の地に広く散在している。尚、場合によっては、ワンガヌイの様な大きな都市圏近くまで来ていることもある。

南島には3種のキーウィが住んでいる。南島のキーウィは、北島キーウィより大型で、色も明るい。多雨地域である南ウエストランド、西部オタゴ、及びサウスランドに住んで居り、フィヨードランド国立公園にも住んでいる。大型斑入キーウィは、南島のオカリト以北の西半部に広く分布し、また中央分水嶺に沿って分布している。小型斑入キーウィは、それほど広くないが、同じ地域に分布する。尚、データには現れていないが、両方ともオカリトの南にも、棲息しているものと思われる。

スチュアート島キーウィは、この島にしか見られない。この鳥は、餌をとるために叢木の縁を越えて歩き回り、灌木地帯に生えている、こけむした弓形の根元に出てくるほら穴などに日中ひそんでいる。

★キーウィと入植

現在でも、キーウィは広汎な地域に見うけられるが、近年、

林の伐採(特に北島においていちじるしい)のために分布は減少しつつある。

初めての入植者が来るまでは、マオリ族がキーウィを捕獲して、食糧用や外用に用いていた。その後奥地住民、鉱山労働者、及び入植者が、これを食糧にした。キーウィは、1908年まで法的に保護されていなかった。

犬も熱心にキーウィを捕えた。このため、入植当初キーウィは、野犬の集団にひどく悩まされ、後には狩猟家や、農場に飼われている犬の被害を受けるに至ったらしい。また、多数のキーウィ見本が、海外の博物館へと船積みされて行った。別に、キーウィは、マフの製造にも用いられた。記録によれば、1人のハンターが、2,200羽も捕獲したと公言している。

山ねこやテンのような哺乳動物の移入による影響は、食肉動物の棲息する地域で、何羽ぐらゐのキーウィが生きているかを知るより、不確定である。むしろ、放牧用の動物が、森林の地面に及ぼした急激な影響の方が重大である。

★現在のキーウィ

キーウィは、他の非飛行性の鳥類に比べて、広汎な分布領域を持っている。この理由は不明である。モアは滅亡してしまった。タカヘは、マーチソン山脈の中にだけ棲息する。カカボはミルフォード・サウンド地区にしか見られない。淡黄色ウエーカ(くいな)は、近年、主島(南島)から消えてしまった。かつて広く分布していた北島ウエーカは、1940年初めに、ポパティ湾地方以外では、どこにも見うけられなくなった。

野生の動物の1種の数や分布が変わると、間接的に他種に影響を及ぼす。その1例はオポッサム(フクロネズミ)である。キーウィやツアタラと共に、1909年に完全な保護策がとられたために、現在では広汎に棲息する害獣となってしまった。キーウィとオポッサムは、その分布がよく一致するので、例年、キーウィがオポッサムのわなにかかり、足指や足、時には口ばしを痛めることがある。キーウィとイノシシの分布も重なっているため、キーウィはハンターの猟犬に殺傷される。今日、あまり大きな山火事はないが、灌木材の伐採や、火災によってキーウィが犠牲になっている。報告によれば、これ以外の危険も知られている。

線路や道路工事用のブルドーザーも、キーウィやその巣を追払って来た。一方、相当数のキーウィが人間と同様、高速道路上の交通事故の犠牲となっている。

★キーウィに対する最初の施策

キーウィの負傷は、非常に定期的に報ぜられている。ある人々は、許可をとってキーウィを飼育し、また飼う場合の最適飼育条件は、何かについて研究を重ねて来た。内務省は、以上の業務に積極的にバック・アップして来たし、同時に、これら保護されている鳥を動物園や「グリーンメドウ」等で、一般人が

眺められるよう努めて来た。この内、幾羽かの鳥は、カピチ諸島で放し飼いをされ、ブルース山野鳥保護所にも飼われている。

この鳥は、夜行性のため、あまりうまく展示され得ないが、注意深く扱うと、多年にわたって人工飼育が可能である。ある鳥は、15年も生きていたことが知られている。メスは、5年目に最初の有精卵を産む。負傷した鳥の世話には、獣医師が最適であるが、優れた技術にかかわらず、幾羽か死亡するものもある。保護されない傷ついた鳥は、野に放つても生存する可能性が少ないことは明らかである。

“貴方はキーウィを救うことができる。”

2種類のキーウィが、良く繁殖しているカピチ島で、1955年の冬、数千匹のオポッサムが、選択的捕獲方式を学んでいた熟練士官の指揮の下に捕獲された。図に見られるように、ほんの簡単な補助装置を用いるだけで、オポッサムがわなにかかり(わなのプレートを踏み)キーウィが、それから逃られるように、仕組むことが出来る。

この結果、キーウィは1羽しかかからなかったが、この時はトラック(わな)をかける人が、そのやり方を誤ったためである。

農場主、捕獲人、及び猟師の皆さんへ!!

以下のことをすることにより、大いに協力して下さい。

- (1) オポッサムのわなは、図解のごとくセットする。こうすれば貴方は、キーウィを助け出し、さらにオポッサムを多く捕獲することができる。
- (2) 猟犬、又は牧場犬を訓練して、キーウィを捕らせないよう仕付ける。これは成功可能である。
- (3) キーウィの棲息がわかっている場合、茂みや灌木林の小区画を伐採したり、火災にならないようにする。

もし、貴方がキーウィを発見したら。

- (1) キーウィが生きていて無傷の場合、決して捕えたり、追っかけてはいけません。巣を見つけたら、絶対にいじらないでそのままにしておくこと。但し、刈ったり、燃やす場合は安全な場所へそのすみかを移してやる。
- (2) 傷ついている場合は、治療のため獣医のところへつれて行くこと。傷が浅く見えていても、重くなる恐れがある。獣医は、内務省へ治療費を請求できる。貴方の行った内容を内務省の地方出先機関の担当者、又は地方風致保存協会に報告して下さい。
- (3) 死んでいるのを発見した場合、上記の二箇所へ持って行くか、あるいはオークランドやウエリントン、クライストチャーチ、ドゥーデン、ニュープリマス、ネイピア、ワンガヌイ、インパーカーズの博物館へ送って下さい。博物館では、運賃の払戻しが行われ、キーウィは科学研究や教科用として用いられる。

8月動物園日記

1. ヌートリアに3頭の赤ちゃんが、生まれました。
2. 今年のきじ類の人工ふ化成績は、次の通りでした。
インドクジャク………28羽 シロクジャク………1羽
キンイロキンケイ………10羽 シロキジ………2羽
コウライキジ………8羽 コジウケイ………8羽
などで、あまり上等のキジは繁殖しませんが、インドクジャクは、かもしか園に放飼され賑やかになることでしょう。
3. レアの卵は、電気ふ卵機に入れていましたが、3コとも無精卵でした。

4. ゴリラのおすが、暑気あたりのためか、下痢をしたりして食欲が減退しています。
6. 夏バテ予防のため、カバ・サイ・フラミンゴなどに飼料を増やしてやりました。
7. クロカモシカが生まれました。
ハイイロカンガルーが急死しました。胃に潰瘍があり、腸炎もみられました。
8. ニホンシカの赤ちゃんが死にました。よく調べてみますと肛門が全くなく、糞が出なくなって、死んだことがわかりました。
9. ブラックバックが生まれました。
ゴリラは、経過がよく、回復に向っています。

10. 鶏舎に出没するネズミを、退治しました。
約60匹を捕えました。
12. キノボリカンガルーの左頬が、少し腫れているので、心配しましたが、放線菌病ではないようです。
13. カメレオンは、入園以来調子が悪く、死にました。
14. エチオピアライオンが、交尾しましたので、また3カ月余り後に、赤ちゃんが生まれるでしょう。
17. アグーチが2頭生まれました。
19. 台風シーズンを前に、一年中出しっぱなしの、フラミンゴの羽切りを行いました。
風切り羽根だけをはさみで切って、浮力がつかないようにするのです。今年ふ化の2羽も、ずいぶん大きくなりました。

- た。
21. トラが交尾をしましたので、12月はじめには、赤ちゃんが見られるでしょう。
チンパンジー舎の改修仕事にかかりました。
24. キリン・カバ・ハナシカが、この日一度に生まれて、嬉しい悲鳴をあげました。
25. 昨日生まれのカバとキリンの赤ちゃんは、うまく哺乳していますので、順調に育つでしょう。
27. 夏休み最後の日曜日とあって、かなりの入場者で賑わいました。
ムササビが死にました。
28. サイのめすが、下痢をしましたので、薬を与えています。

ミミズの養殖苦勞物語

ミミズは、地面から湧くものである。ミミズの養殖なんて至極簡単な筈だ。落葉をかぶせて水さえやっつけばいいんだから。と、考えるのがオチだろう。だが、そう事は簡単にはいかなかったのである。何しろ数量の問題であった。

ニュージーランド政府から、万博の記念に贈られた珍鳥キウイは、なんと1日1羽当り、400gのミミズを必要としたのである。2羽で800gから1kgのミミズ、丁度手頃なのは手帳に付いている鉛筆位の太さで、これが400匹で400g位である。それがそう理想通りの肥満体がいれば文句はないが、ラーメン位ならまだしも、ソーメンや、はては糸屑みたいなまでかき集めて、やっとなにに合わせるのだから、数など数えようものなら気が遠くなる。用意のミミズは忽ち底をついた。そこで、動物園始めて以来の、大々的な「ミミズ下さい!!」のPR作戦が開始されたのである。効果はテキ面、各方面から、ミミズがいるとの情報が相雑いだ。園では、若い飼育係を動員しての採集隊が、毎日のようにスコップかきで出かけていった。折から暑い最中で、しかも一人前の仕事をした上での事である。採集隊の努力に比して、効果の上らない事も、あった。半日走り廻って、集まったのは土ばかり、一握りのミミズもない事もあった。2・3日前迄はいたんですがねえ、と、いう事である。

ミミズの移動は、案外速い? 炎天が続くと、少しでも湿った処を求めて移動してしまう。都会の人達は私も御同様だが、ミミズの事など殆んど知らなかった。10匹もいると、沢山いたいたと云う事になる。牛乳ビンに2・3匹のミミズを、大事に入れて持って来て下さる方が多かった。しかし、時間と労力と費用をかけて持って来て下さる心がうれしい。それに、チリも積れば山となるの通り。のどから手の出る程欲しいミミズの事である。ほんとにありがたかった。殊に、遠方の方々や動物園から、理想的な状態で、沢山のミミズを送り届けて下さった時はまさに旱天に慈雨の思いだった。

私は私で大変だった。キウイ舎裏に、畳1帖位のミミズの苗床(下防虫アミ、横30cmの板張り)を10程作って、採集隊の採って来た土のまゝのミミズを入れる。その中から、毎日800gのミミズだけをとり出すのである。土のまゝのミミズをキウイ舎に入れられ、世話はないが、そんな事をすれば、狭い室内は土で埋まり、悪臭が満ちる事になる。一匹一匹ピンセットでつまみ出すより手はなかった。ミミズの採集速度は、その人口?密度と太さにかゝっている。出来るだけ速く採集出来るようにと、光や水を使ってやっても見たが、結局そのような方法では、とても多量の採集には間に合わず、ピンセットに落ちてしまう。苦心サンタンしているのを見て、上司がミミズラーの開発を考えて下さったのは、此の時である。二つの電極を用いて、振動によりミミズを、おびきよせようというのである。これは、甲子園球場での実験ではうまくいって、ミミズがソロソロ出て来たというので、やれやれ助かると喜んだが、実際にはうまくゆかなかった。が、何時までもこの状態でもいいものではなかった。何としてでもミミズの養殖をしなければ、どうにもならなくなるのは目に見えていた。幸い、ミミズが雌雄同体であるのに目をつけ、落葉を山程敷きつめて見たが効果は全然なかった。牧場にミミズが多いところから、草食獣の排泄物やワラが、いのではないかと、野菜屑も含めて、飼育から出るゴミはすべて、猛獣舎裏の広い空地に積まれた。が、これも急に効果は出さずになかった。ミミズの養殖法なんてどんな本にも書いてない。頭をかゝえている時来て下さったのが、米人マイヤー氏だった。

シカゴ在住の歯科医であるマイヤー氏も、ミミズの専門家では

はなかったが、新聞を見て応援を申し出て下さったのである。熱心な方で、45・46年と数回来園され、指導して下さい。始めて前途に希望がもてるようになったのは、マイヤー氏のお蔭だった。冬の間、苗床のミミズを掘り出す一方、マイヤー氏指導の養殖に熱中した。草食獣の糞と、野菜屑と、青草と、土の層を積み重ねて、幾つもの山を作るのである。46年春になった時、苗床のミミズから少数ではあるが、小さい小さいミミズが孵った。そしてその夏、マイヤー氏指導の養殖場も、始めて養殖ミミズの出荷?に成功したのである。やれよかったとホッとしたが、私は間もなく重大な事に気がついた。養殖場には絶えず新しい餌を補給していかねば、ミミズを集合させて置く事は出来ないであった。がっかりしたが、とにかく見通しだけはついたのである。よし、それならばどうすれば、一番高密度でミミズの増殖が出来るかと、いろいろな山を作ってみた。ウンウン云いながら、一輪車一杯の大根葉、白菜、キャベツ等を何度運んで山にした事だろう。が、残念にもこれは腐敗は早いのがコロコロの低さが、ミミズのお好みではなかったらしい。いづれも見事な失敗であった。甲子園の芝生ににいるというので、園内の芝の刈ったものは、すべて運んでやってみたが、これも失敗。豆腐粕が好きだと聞いて、これもやっだが失敗。白水をかけるという以上、糠もいんじやないかと、やってみたがこれもダメ。結局、野菜屑と云ってもミミズのお好みなのは、人参、甘藷、玉ねぎの混合物の腐敗し始めるものと決った。ただしねずみの害に要注意。一方、動物の便で一番好むのは、サイの糞だと判った。これはサイの便は、馬に似て消化が余り良くないので、それだけ養分が残っているのだらうと思われる。しかし、勿論2・3ヶ月を要する。山に積み込む時、ワラや干草はダメだった。ワラは腐敗が遅く、干草はどうしてか、蟻の巢に利用される事が多い。意外とうまくいったのは、厚く固い脂肪だった。肉はウジがわいたり、ねずみにひかれたりでだめだが脂肪の方は、期間は長くなるが、臭もなく労力もかゝらない。ただし費用がかかる。こうして苦心の結果、46年からは、ミミズの寄附は仰がないでも、やっとうけるようになった。猛獣舎裏は、次第に肥沃な土に変わりつゝあった。そして今年、47年、思いがけなく、多量の太ミミズが発生したのである。「やった!!」と思わず叫びたい程の見事な成績だった。一度スコップを入れる毎に、ワッと云う程の太ミミズがとびはねた。ほんの少しの時間で、1日の分量が採集出来た。嬉しかった。肥沃な土とカバの糞と、ワラ灰とがこの好結果をもたらしたものだと思われた。それにもまして嬉しかったのは、キウイが太ミミズを好んだ事であった。細ミミズと違って、とびはねるのが面白いのかも知れない。勇み立って、舌なめづりして待っているのが、夕方ミミズを入れに行く時よく判った。始めてミミズの養殖に大きな自信がついたように思われた。が、そうは行かなかったようである。

2年かかって、やっとう出来たミミズの養殖場は、工事の為に移転しなければならなくなったのである。今度の代替地は、ガラ地で保水力など全然ない。水が是非とも必要だと思われるのに、水利が悪い。ミミズはタダで出来る。タダ程安いものはなかるうが、タダ程高くつくとも云う。毎日毎日のミミズの採集を続けて行くのに、どれだけの労力が払われていたか。でも、大切なキウイの為に。それはよいとしよう。しかし、エッチラオッチラ坂道を越えて、遠くから水を運ぶ。何と非効率なことか。今年の冬、ミミズを確保出来る自信は全くないが、やらねばならない。限られた条件の中で、動物を飼っている私達の務めでもあろう。今日も又、私は新しい養殖場へ土を運んでいる。

大阪市天王寺動物園飼育係 磯田啓子

動物園ニュース

◎まだ続くおめでたラッシュ!!

早春のサイの出産にはじまり、ラクダ、シマウマ、バクと大もの動物の出産が続きましたが、また、また、キリン、カバと同日に生まれるという賑やかさです。

★キリンの赤ちゃん



8月24日早朝、待望の元気な赤ちゃん(めす)が生まれました。父親キリンは、初孫の元氣な誕生に首を長くのばして見守っていました。



(写真3)

アライグマには3頭

明日のくらしのコンサルタント



アベノ店



上本町店

3月14日 奈良近鉄百貨店オープンノ近鉄西大寺駅前が登場した日本で初の本格的なショッピングセンターの中で新しい感覚のファミリーデパートとして多彩な催しをくりひろげます

つねに新しいくらしのイメージをお届けする近鉄百貨店 品揃えは勿論のことゆきとどいたサービスで 皆さまをお迎えいたします 身近かなコンサルタントとしてぜひご利用ください



奈良店



TEL. アベノ(06)621-1231 / 上本町(06)779-1231 / 奈良(0742)33-1111

ナグマ、アグーチに赤ちゃんが生まれました。

ヌートリアは、3頭の赤ちゃんを生みました。大きなねずみといった動物ですが、水の中の生活が多く、足には水かきもあります。こんな動物でも、赤ちゃんはさすがにかわいくて、もう好物のリンゴをかじっていました。泳ぎも、小さいながらさすがに達者です。(写真③)

(写真6)



アグーチは、2頭の赤ちゃんがいます。だいたい1産1~2頭が生まれます。割合よく赤ちゃんを産む動物です。(写真⑥)

ミミズの養殖苦労物語

ミミズは、地面から湧くものである。ミミズの養殖なんて至極簡単な筈だ。落葉をかぶせて水さえやっつけばいいんだから。と、考えるのがオチだろう。だが、そう事は簡単にはいかなかったのである。何しろ数量の問題であった。

ニュージーランド政府から、万博の記念に贈られた珍鳥キーウィは、なんと1日1羽当り、400gのミミズを必要としたのである。2羽で800gから1kgのミミズ、丁度手頃なのは手帳に付いている鉛筆位の太さで、これが400匹で400g位である。それがそう理想通りの肥満体がいけば文句はないが、ラーメン位ならまだしも、ソーメンや、はては糸屑みたいなまでかき集めて、やっとなら間に合わせるのだから、数など数えようものなら気が遠くなる。用意のミミズは忽ち底をついた。そこで、動物園始まって以来の、大々的な「ミミズ下さい!!」のPR作戦

はなかったが、新聞を見て応援を申し出て下さったのである。熱心な方で、45・46年と数回来園され、指導して下さい。始めて前途に希望がもてるようになったのは、マイヤー氏のお蔭だった。冬の間、苗床のミミズを掘り出す一方、マイヤー氏指導の養殖に熱中した。草食獣の糞と、野菜屑と、青草と、土との層を積み重ねて、幾つもの山を作るのである。46年春になった時、苗床のミミズから少数ではあるが、小さい小さいミミズが孵った。そしてその夏、マイヤー氏指導の養殖場も、始めて養殖ミミズの出荷?に成功したのである。やれよかったとホッとしたが、私は間もなく重大な事に気がついた。養殖場には絶えず新しい餌を補給していかねば、ミミズを集合させて置く事は出来ないであった。がっかりしたが、とにかく見通しだけはついたのである。よし、それならばどうすれば、一番高密度でミミズの増殖が出来るかと、いろいろな山を作ってみた。ウン

子どものための 動物のふしぎな世界

●全4巻 春・夏・秋・冬

- 園児から小学校低学年向きです。
- オールカラー160頁・B5判・上製本
- 各巻定価1,300円/セット価5,200円

子どもに動物に対する深い興味と、親しみを与える本書は、春・夏・秋・冬の季節別に活動する動物の生態の不思議さや、人と動物との心あたたまるふれ合いなどのエピソードを集めたものです。きっと子どもと動物たちの間にすばらしい世界がはじまるでしょう。

●お近くの書店・百貨店で求めください。 **ひかりのくに**



果は全然なかった。牧場にミミズが多いところから、草食獣の排泄物やワラがい、のではないかと、野菜屑も含めて、飼育から出るゴミはすべて、猛獣舎裏の広い空地に積まれた。が、これも急に効果は出そうになかった。ミミズの養殖法なんてどんな本にも書いてない。頭をか、えている時来て下さったのが、米人マイヤー氏だった。

シカゴ在住の歯科医であるマイヤー氏も、ミミズの専門家で

大切なキーウィの為だ。それはよいでしょう。しかし、エッチラオッチラ坂道を越えて、遠くから水を運ぶ。何と非効率なことか。今年の冬、ミミズを確保出来る自信は全くないが、やらねばならない。限られた条件の中で、動物を飼っている私達の務めでもあろう。今日も又、私は新しい養殖場へ土を運んでいる。

大阪市天王寺動物園飼育係 磯田啓子

動物園ニュース

◎まだ続くおめでたラッシュ!!

早春のサイの出産にはじまり、ラクダ、シマウマ、バクと大もの動物の出産が続きましたが、また、また、キリン、カバと同日に生まれるという賑やかさです。

★キリンの赤ちゃん

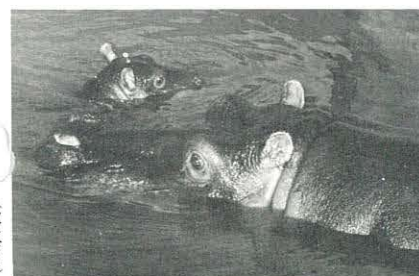


(写真1)

8月24日早朝、待望の元気な赤ちゃん(めす)が生まれました。父親キリンは、初孫の元気な誕生に首を長くのばして見守っていました。母キリンが父親キリンの子であるところから、近親交配ということで、無事出産するか危ぶまれていました。ここ2-3年、死産、流産と思わしくなかったのですが、今回はホッと胸をなでおろしました。

なお、もう一頭のめすも分娩が近づいていますので、うまくいくと全部で5頭と、大変キリンたちも賑やかになります。(写真①)

★カバの赤ちゃん



(写真2)

24日の夕方生まれました。カバの誕生も約2年ぶり。この母親も3産目とあって授乳もてなれた?もの。元気に育っています。性別は、大変確認しにくいのですが、まずめすに間違いなと思われず。いつも母親について、産室についた室内プールで泳いだり、母カバの顔にあごをのせて眠ったりしています。(写真②)

★小獣舎の動物たちにも赤ちゃん続々

7月から8月にかけて、ヌートリア、アライグマ、ハナグマ、アグーチに赤ちゃんが生まれました。

ヌートリアは、3頭の赤ちゃんを生みました。大きなねずみといった動物ですが、水の中の生活が多く、足には水かきもあります。こんな動物でも、赤ちゃんはさすがにかわいくて、もう好物のリンゴをかじっていました。泳ぎも、小さいながらさすがに達者です。(写真③)



(写真3)



(写真4)

アライグマには3頭の赤ちゃんが生まれましたが、もう3回目のこととて大変育児上手で、すくすく育っています。これまで赤ちゃんに皮膚病が出たりして、弱ることが多かったのですが、今回はうまくいっています。(写真④)



(写真5)

前回は、何か落着かないのか、子供を見捨ててしまいました。赤ちゃんは、とっても母親によく似ていて、よくじゃれて遊んでいます。(写真⑤)



(写真6)

アグーチは、2頭の赤ちゃんがいます。だいたい1産1-2頭が生まれます。割合よく赤ちゃんを産む動物です。(写真⑥)

なきごえ 昭和47年9月15日発行(毎月1回15日発行) 第8巻第9号(通巻86号)

編集 / 大阪市天王寺動物園

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

印刷所 / 株式会社 松村善進堂

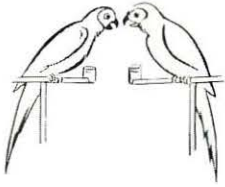
定価100円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 (06)771-0201

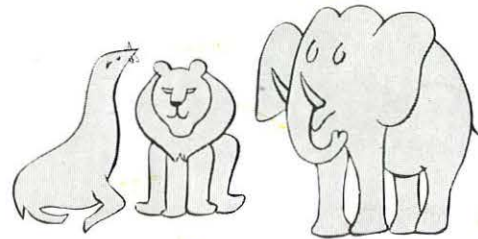
振替口座 大阪 37823

1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話 (078)22-8195・22-1517

飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話 (078)24-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

パイン・オレンジ・フルーツカクテル

各140c.c.=60円